

2025年3月度 中部品質工学研究会 議事録

- 開催日時 2025/3/1 10:00~16:00
- 開催場所 アイテックインターナショナル
- 会員参加者<敬称略> S:オンサイト出席・L:オンライン出席、欠:欠席、書:書記、休:休会

大見	S	牧野	S	横尾	S	城越	S	伊藤	S	舟山	S	出島	S	水田	S
山中	L	山口(展)	S	黒田	書	鈴木	S	池田	S	山口(直)	S	前田	L	北村専務	L
小西	休	中山	休	李	休	河合	休	則尾	休	杉浦	休	福田	休		

4. 研究会内容

1) 輪講「芝野広志 基本機能ハンドブック8章 その他基本機能」(池田さん)

章内には5つの基本機能(発光機能、発熱機能、摺動機能、紙搬送システムの摺動機能による評価、発電機能)について記載があり、各機能の説明があった。議論では各機能の出力をどうやって測定するのが活発であった。また、最後に載っている機能一覧のページが便利な点と、演習問題も答えはあるがやるのは面白いなど話があがった。

2) 事例相談 木村さん

内容非公開。

3) 品質工学教材開発のための打ち合わせ

○最初に合宿で実施した時の内容を振り返った。
合宿時は3チームに分かれて教材の検討を実施。教材は下記の通り。
・チーム1:教科書に記載のある"ダイキャストマシン"のシミュレーションの実施
・チーム2:教材検討。案は"ボウガンの矢"
・チーム3:教材検討。5つ案あり。"接着剤の接着強度評価"、"ペットボトル飛ばし"、"ゴルフシミュレーション"、"ボールの坂転がり実験"、"プラスチック生成"
○目的と目標の再定義を実施。
議論内容:
品質工学の有効性を半日実感できる。研修で事前に勉強していることが前提
→有効性:汎用性・再現性・先行性 →品質工学の何がうれしいのかを改めて考える
・短期間で最適条件が抽出できる:時間の壁→機能評価
→時間の壁は考えなくてもよいかもしれない
・より少ない実験回数で最適条件が抽出できる:数の壁→直交表
・ロバストな設計条件抽出できる:複雑さの壁→再現実験
→確認実験で利得の再現性を確認する
最終的に落ち着いた内容は下記となった。
★目的
・品質工学初心者が対象 ・教材を提供する ・パラメータ設計の手順と有効性(効果)が3時間で体験できる。
★目標
・いつまでにどのレベル →2025年12月までに学会で発表できる水準にする。
○教材は何を用いるかの議論
・実機は一度試してみても考える。対象は"ボウガンの矢"と"ボールの坂転がり実験"
・シミュレーションは再検討。ダイキャスト以外で追加で案としてでたのは鳥人間コンテスト、汚水処理。

4) 事務局連絡

・次回:手島先生の講演(2h)、教材検討(2h)、輪講は無し
・会計:図書で持っていないもののマトリックスを作成し、対象者に本を配る(送付ではなく、現地手渡し)
・対外関係:滋賀の研究会が3月をもって活動停止。
・輪講:10月までの輪講の割り振り作成。資料はどこキャピアップ。
・合宿:あいち健康の森で決定。
・住所録:部署変更などあるため2025年4月1日付で更新する。